

兵庫の林業

2020. 4 No. 292



もくじ

就任のご挨拶・・・・・・・・・・1～2
令和2年度

林務課予算の概要・・・・・・・・・・3～4

豊かな森づくり課予算の概要・・5～6

治山課予算の概要・・・・・・・・・・7

鳥獣対策課予算の概要・・・・・・・・8

〈普及だより〉

「ひょうごの木」利用拡大・・・・・・・・9

森林ボランティア活動・・・・・・・・10

高精度三次元データの公開について・・10

「ひょうごの木の家」設計支援・・・・・・・・11

狩猟免許試験のご案内・・・・・・・・11

技能講習会等のご案内・・・・・・・・11

森林大学卒業生の進路等について・・12

兵庫の巨樹・巨木(33) (裏表紙)

題字・・・・兵庫県知事 井戸敏三氏

表紙の写真

平成31年1月に完成した兵庫県林業会館は、「CLT（直交集成板）」と鉄骨ハイブリッド構造」を日本で初めて採用した都市型オフィスビルです。

1階のエントランスホールには、木に触れて、遊んで、木の良さ、心地よさを体感できる木育コーナーがあり、親子で木にふれあい楽しんでもらっています。

当面、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため休止しますが再開しましたら是非お越しください。

(写真は、松玉プールで遊ぶ親子づれ)

森林参事就任のご挨拶

金子 哲朗



このたび、森林参事を拝命しました、金子でございます。

平素は、兵庫県森林行政の推進につきまして、ご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

林務課、豊かな森づくり課、森林保全室及び治山課の業務の総括という大役を仰せつかり、身の引き締まる思いですが、皆様には一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

さて、本県森林面積の4割を占める人工林は、利用可能とされる46年生以上のものが7割を占め、資源の充実が進んでいます。大型製材工場や木質バイオマス発電所の稼働等により、県内の原木生産量は近年大きく伸びていますが、路網整備と団地化による伐採・搬出のさらなる低コスト化、再造林

にかかる森林所有者の負担軽減等による主伐・再造林に取り組み、資源循環型林業を一層推進します。今年度、当初予定から倍増される森林環境譲与税についても、市町等と連携しながら条件不利地の間伐等が進むよう活用を図るとともに、県産木材の魅力発信及び都市部・非住宅分野における木造・木質化を推進します。

また、人工林のみならず天然林も含めた豊かな森づくりのため、県民総参加による「新ひょうごの森づくり」を推進するとともに、県民緑税を活用した「災害に強い森づくり」について、第3期対策の最終年度となることから、今までの整備効果の検証結果を踏まえ、今後の方向性等の検討を進めます。さらに、多発する自然災害に備え、山地防災・土砂災害対策計画に基づき、「ひょうご式治山ダム」等の整備を強力に進めるとともに、保安林等の森林の適正な管理にも引き続き取り組みます。

今年度は、いつもと違った雰囲気でのスタートとなりましたが、皆様とともに元気を出して、前向きに取り組んで参りますので、どうぞよろしく願います。

豊かな森づくり課長

就任のご挨拶

峯 陽治郎



このたび、豊かな森づくり課長を拝命しました、峯でございます。平素は、豊かな森づくり施策の推進にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

森林は、雨水の貯留による洪水や渇水の防止、二酸化炭素の吸収による温暖化防止など、多くの公益的機能を有しています。本県では、この機能が高度に発揮されるために豊かな森を県民総参加で守り、育てる取組みとして、山の管理を行い、間伐の推進や里山林を再生する「新ひょうごの森づくり」と森林の防災機能の強化を図る「災害に強い森づくり」の2本柱を推進しています。

1 新ひょうごの森づくり

公的関与による森林管理の徹底と多様な主体による森づくり活動の推進を基本方針として「新ひょうごの森づくり第2期対策」(H24～R3年度)を推進しています。

森林管理の徹底では、間伐及び作業道開設の補助残額を、県・市町が連携して公的負担する「森林管理100%作戦」を展開しています。が、奥地等の条件不利地(非経済林)の間伐の促進が課題です。このため、昨年度に創設された森林環境譲与税を市町が活用して、非経済林の間伐を進めて参ります。多様な主体による森づくり活動の推進では、森林ボランティアや企業などによる森林整備を推進しています。県内には1万人を超える森林ボランティアが活動されていますが引き続き、次代のリーダーの養成等を図って参ります。

2 災害に強い森づくり

県民緑税を活用した「災害に強い森づくり」では、平成26年の8月豪雨災害による斜面崩壊・流木被害対策も踏まえて、第3期対策(H28～R2年度)に取り組んでいます。今年度は、近年多発する豪雨や深刻化する野生鳥獣被害対策として、現行計画に県内25箇所を追加し、緊急防災林整備事業等を実施します。

また、今年度は、第3期対策の最終年度であることから、事業効果の検証や課題をとりまとめ、事業の方向性や継続の是非について検討して参ります。

皆様方には、様々な場面でご指導・ご協力を賜ることになると考えておりますので、何卒よろしくお願いいたします。

治山課長就任のご挨拶

村上 晴茂



このたび、治山課長を拝命しました、村上でございます。

平素は兵庫県の森林土木行政の推進にご協力賜り、厚くお礼申し上げます。

本県では昨年大きな災害もなく穏やかな一年でしたが、全国的には各地で災害が多発しました。特に、9月、10月と連続して大きな台風が日本に上陸し、関東地方を中心に東日本各地は大きな被害を受けました。台風19号は千曲川や阿武隈川といった各地の大河川を決壊させ、死者・行方不明者が100名を超える被害をもたらしました。また、山地災害も各地で発生し、県では4月から長野県へ職員を派遣しています。

近年の山地災害は、大量の流木が土砂とともに流下し下流域に甚大な被害をもたらす事が問題となっております。いかに被害を少なくするかが大切であり、改めて森林

の再生・保全を図り、森林の持つ防災機能を回復・向上させる治山対策の重要性が再認識されているところです。

本県では、①人家等に被害を与える恐れが高い溪流、②人工林率の高い谷筋や0次谷を有する山腹斜面で崩壊発生の可能性が高い箇所に対して「第3次山地防災土砂災害対策計画」(平成30年～令和5年)により治山ダムの整備を強力に推進しています。また、過密化した保安林の森林整備や、機能が劣化した既存施設の補修等による長寿命化対策、さらに、危険箇所の情報発信や住民と共に防災マップの作成などソフト対策にも取り組んでいます。

また、森林資源の効率的・継続的な利用を進めるため、「新ひょうご林内路網1000km整備プラン」に基づき、須留ヶ峰線、千ヶ峰・三国岳線の開設を促進し事業効果の早期発現を図ります。さらに木質バイオマス燃料等の新たな木材需要の増加を踏まえ木材の安定供給を強化するため、既設林道と作業道をつなぐ大型トラックが通行可能な林道専用道の整備を推進しています。

今後とも皆様方の一層のご理解とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

森林保全室長

就任のご挨拶

竹下 洋一



このたび、森林保全室長を拝命しました、竹下でございます。

平素は、保安林制度及び林地開発許可制度の適正な運用や森林病害虫被害対策の推進など、当室所管の業務にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。さて、令和元年度は幸いなことに本県では大きな災害はありませんでしたが、長野県をはじめ全国各地で災害が発生しており、これに即した対策が課題です。このような中、森林の適正な保全と管理の重要性は疑う余地の無いところです。

保安林制度については、治山事業施行地を中心に保安林の指定を進めるほか、原木の安定供給の促進等に必要な指定施設要件の変更を計画的に進めてまいります。

林地開発許可制度については、再生可能エネルギーの固定価格買

取制度を活用した太陽光発電施設の設定に係る申請案件が県南部を中心に多くあり、地域住民との軋轢が生じる事例もあります。

このため、県では一定規模以上の森林伐採を伴う太陽光発電について、アセス条例に基づく環境影響評価の対象に追加したり、太陽光条例に環境の保全の基準を追加したりするなど、規制を強化しております。引き続き、土砂災害や水害防止等の観点から、林地開発許可基準に則り、厳正な審査・指導を行うほか、違反開発の未然防止に向けた巡視の徹底に努めます。ナラ枯れ被害については、前年度に引き続き大幅に減少しましたが、特に不特定の県民の入り込みがある里山の散策道沿いでの被害木の伐倒処理等を行い、倒木等の二次被害を防ぐ「ナラ枯れ防止作戦」を展開します。

松くい虫被害については、少ない状況が続いていますが、特に薬剤の空中散布を安全に配慮の上、箇所を厳選して実施する一方、ひょうご元気松(抵抗性アカマツ)の植栽事業など環境に配慮した対策を進めます。

皆様方には、いろいろとお世話になることもあるかと思いますが、今後とも一層のご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和2年度 林務課予算の概要

県内では、大型製材工場やバイオマス発電燃料による木材需要の増加により、原木生産量は平成25年度の24万m³から平成30年度の47万m³へと大きく増加しています。

このような状況に対応し、原木の供給面では必要な需要を持続的に供給していくため、搬出間伐の促進とともに主伐による原木供給と再造林による資源循環型林業の確立に向けて取り組む方針です。

また、市町による森林環境譲与税を活用した非経済林の間伐や「新たな森林管理システム」が円滑に進むよう「ひょうご森づくりサポートセンター」等を通じて支援します。

利用面では、「兵庫県県産木材の利用促進に関する条例」に基づき、川上から川下までの関係者の連携と協働により、建築用材と燃料用材の2本柱で県産木材のさらなる利用拡大に取り組みます。

凡 例

【緊急】：森林林業緊急整備事業（県事業名）

㊦：令和元年度県補正予算措置分

【新】：新規事業

※金額は令和2年度県当初予算ベース

1 多面的機能の発揮に向けた森林整備

(1) 多様な森林の整備

人工林のうち、育成単層林については、気象災害等に配慮しつつ、間伐等を推進するとともに、地形や地質等により条件の悪い森林については、針広混交林化や天然林へと誘導する等、多様な森林の整備を図る。

また、資源循環型林業の実現に向けて、主伐後の再造林に対する支援を実施する。

造林事業（国内示ベース）	1,601,000千円
（うち花粉発生源対策）	91,599千円
造林事業（R1当初→R2繰越）	421,000千円
（うち花粉発生源対策）	66,074千円
造林事業（R1経済対策補正）	㊦330,000千円
【緊急】間伐（R1経済対策補正）	㊦174,000千円の内数(TPP関連)
重要水源林機能高度化事業	22,000千円
資源循環型林造成パイロット事業	7,200千円
針葉樹林と広葉樹林の混交整備事業	295,205千円

(2) 施業集約化の促進

森林施業の集約化を促進するため、森林経営計画の作成や森林境界の明確化等を支援する。

森林整備地域活動支援事業 85,524千円

(3) 生産基盤の整備

（協）兵庫木材センターを含めた製材工場等に必要300千m³/年の原木に加え、木質バイオマス発電向けの燃料用として見込まれる170千m³/年を合わせた470千m³/年の原木を低コストで安定的に供給できる基盤を整備するため、森林施業の団地化、林内路網の整備及び機械化などを支援する。

【緊急】林内路網整備

㊦174,000千円の内数(TPP関連)

森林資源活用システム整備事業 60,000千円
県産木材利用促進特別融資事業
（高性能林業機械等導入資金）100,000千円

【緊急】高性能林業機械等導入

㊦174,000千円の内数(TPP関連)



(4) 林業技術の普及

林業普及指導員による林業技術の普及指導活動や指導林家等・山村リーダー研修等を通じて、地域リーダーや後継者を育成する。また、市町村森林整備計画や森林経営計画の作成実行について市町を技術面で支援する「地域森林総合監理士（フォレスター）」を育成する。

林業技術普及費 4,717千円

2 林業の担い手の育成

(1) 次代の森林林業を担う人材の育成

県立森林大学校において森林経営から森林セラピーや獣害対策に至るまで、森林に関わる人材を幅広く育成する。

また、即戦力となる人材に対して給付金を交付する。

兵庫県立森林大学校運営費（教務手当含む） 50,184千円
緑の青年就業準備給付金 42,637千円

(2) 林業事業者の育成・確保

収益性の高い低コスト林業経営モデルの確立に向け、県立森林大学校研修科において林業機械コースや森林経営コース、木材利用コースなど高度なカリキュラムを実施し、林業事業者における森林施業プランナー、現場技能者等の能力を高めるとともに、林業労働者の就労環境の改善、労働安全衛生の向上を図る。

兵庫県立森林大学校運営費（教務手当含む） 50,184千円(再掲)
林業労働力育成対策事業 1,148千円

(3) 森林組合の育成

森林組合の事業活動を強化し、中核的担い手として育成するため、利用事業の展開や経営改善など自主的な取り組みへの支援、ガバナンス・コンプライアンス研修の実施、合併等の促進による経営基盤と役員研修や専門家派遣等による執行体制の強化を図る。

森林組合等経営基盤強化対策事業 2,226千円
森林組合機能強化資金貸付 800,000千円

(4) 林業・木材産業の経営基盤の強化

林業・木材産業事業者に対して、低利・無利子の資金を融通することにより、林業及び木材産業の健全な発展、木材生産及び流通の合理化の促進を図る。

林業・木材産業改善資金貸付金 150,000千円
木材産業等高度化推進資金 780,026千円
県産木材利用促進特別融資事業

（製材用原木の取扱に係る運転資金） 100,000千円(再掲)

3 県産木材の供給体制の整備と利用拡大

(1) 県産木材の供給体制の整備

品質向上や供給体制の確立に向けた木材乾燥機など木材加工流通施設の整備により、県産木材の品質向上や供給体制の整備を図る。

林業構造改善事業 55,660千円の内数
県産木材供給体制整備事業 500千円

(2) 「ひょうごの木」利用拡大

① 公共・民間施設の木造・木質化の推進

展示効果が見込める公共施設や民間施設での木造化、木質化を進めるとともに、公共土木工事での県産木材の利用を進める。

林業構造改善事業 55,660千円の内数
【新】非住宅木造・木質化促進事業 12,500千円

② 県産木材を使用した住宅の建設促進

「ひょうご木の匠」登録工務店による県産木材を利用した魅力的な木造住宅の設計及び工務店グループによる県民向け住宅展示・相談会の開催を支援するとともに、本県独自の長期固定で低利な融資制度の活用により、県産木材の利用意義のPRと県産木造住宅の建築促進を図る。

【拡】木づかい普及啓発事業 53,320千円の内数
【拡】県産木材利用木造住宅特別融資事業

返済期間25年→35年に延長（R2～） 26,760,020千円
県産木材利用促進総合対策事業 1,820千円

③ 県産木材の新たな用途開拓

防火地域等への県産木材の利用拡大を図るため、耐火部材等の技術開発にかかる現状や防火地域等で木材を利用するための課題等に関する研究を進めていく。

木づかい普及啓発事業 53,320千円の内数

④ 県産木材の利用意識の醸成

住宅建築を検討している県民を対象に、山での伐採作業から製材所での加工の様子、このような県産木材を使った木造住宅の現地見学を通じて、県産木材の利用意識の醸成を図る。

木づかい普及啓発事業 53,320千円の内数

⑤ 木質バイオマスの利用促進

未利用間伐材等の収集機械、チップ加工施設、木質資源利用ボイラー施設導入のほか、未利用材を仕分け・ストックする山土場整備、購入資金等に対して支援する。また、燃料用材の安定供給対策として、間伐に加え、主伐を進めていくため、主伐から植林までを一連の作業として

効率的に実施する、主伐・再造林の低コストモデルの検討を進める。

【拡】バイオマスヤード整備事業 4,500千円
林業構造改善事業 55,660千円の内数
県産木材利用促進特別融資事業
（バイオマス燃料用木材の取扱に係る運転資金） 100,000千円(再掲)

4 森林環境譲与税を活用した森づくりの推進

地球温暖化防止のほか、国土の保全や水源のかん養などのため、平成31年度から導入された森林環境譲与税を活用し、市町が行う森林整備等を支援する。

(1) ひょうご森づくりサポートセンターの設置

市町が実施する森林整備事業等をサポートする窓口を林業会館内に設置し、森林経営管理法制定を受けて市町が実施する森林経営管理制度業務や森林整備事業業務、木材利用業務を支援する技術者の派遣等により、市町業務を総合的に支援する。

【拡】ひょうご森づくりサポートセンター設置事業 40,546千円

(2) 森林クラウドを活用した森林情報の高度化

樹種、林齢、面積、施業履歴等の森林情報を県・市町・森林組合等の関係者がクラウド上で共有できるシステムを構築し、円滑な森林整備の実施につなげる。

【拡】森林クラウド活用情報高度化事業 44,909千円

(3) 県立森林大学校を活用した市町職員養成講座の実施

市町職員の専門能力向上を目的とした養成講座（森林林業の概要と実務、木材利用の実務、森林GIS等）を実施する。

森林大学校を活用した市町職員養成講座の実施 7,148千円

(4) 林業災害防止研修の実施

急増する急傾斜地等の条件不利地での立木伐倒作業等を安全に行う技術指導ができるリーダー人材を育成する。

【新】伐倒練習機等を活用した林業災害防止研修の実施 15,184千円

(5) リモートセンシング技術者養成研修の実施

森林整備の急激な増加に対応するため、ドローン等を活用したリモートセンシング技術習得による測量業務を安全かつ円滑に実施するリーダー人材を育成する。

【新】リモートセンシング技術者養成研修の実施 6,045千円

(6) ひょうごの森づくり・木づかい普及啓発

県民が森林環境税への理解を深めるための、森づくりや木づかいに関するシンポジウムと市町の森林環境譲与税を使った取組を紹介するフェアを同時開催する。

ひょうごの森づくり・木づかい普及啓発事業 3,000千円

令和2年度 林務課 主な事業 当初予算額	32,930,475千円 (対前年度比100.8%)
(+繰越R1→R2)	33,933,569千円 (対前年度比100.9%)

令和2年度 豊かな森づくり課 予算の概要

森林の持つ多面的機能の高度発揮のため、「公的関与による森林管理の徹底」「多様な担い手による森づくり活動の推進」を基本方針とする「新ひょうごの森づくり・第2期対策（平成24～令和3年度）」を推進しています。

また、緑の保全及び再生を社会全体で支え、県民総参加で取り組む仕組みとして、県民緑税を活用した「災害に強い森づくり・第3期対策（平成28～令和2年度）」に取り組み、森林の防災機能の強化を図っています。

さらに、森林の保全・管理、森林病虫害被害対策にも取り組み、県民の安全・安心な暮らしを守る「ひょうごの豊かな森づくり」を推進します。

1 新ひょうごの森づくり・第2期対策の推進

(1) 森林管理100%作戦

間伐が必要な60年生以下のスギ・ヒノキ人工林について、国の公共造林事業による間伐及び作業道開設の補助残額を県・市町が連携して公的負担を行い、森林管理の徹底を図る。

・「森林管理100%作戦」推進事業 72,976千円
[間伐：5,000ha 作業道：70km]

(2) 里山林の再生

集落周辺の里山林の生活環境や景観の改良のため、地域住民等による森林整備活動に対し、資機材の購入等の支援を行い、健全な里山林への誘導を図る。

(森林・山村多面的機能対策発揮交付金と一体的に実施)

・住民参画型里山林再生事業[280ha] 8,223千円

(3) 県民総参加の森づくり推進

森林への関心や保全の大切さを県民へ普及し、さらに森林ボランティアの次代のリーダー等の養成により、県民総参加の森づくりを推進する。

・「ひょうご森のまつり」の開催 1,000千円

・森林ボランティア・リーダー養成講座の開催 1,000千円

(4) 企業の森づくりの推進

企業・団体等が社会貢献活動の一環として所有者に代わって行う森林保全活動を支援することにより、多様な担い手による森づくりを推進する。

・企業・団体等の年間活動計画等の策定に係る指導等 1,513千円

(5) 森林とふれあう公園の運営

森林ボランティア等の県民の参画と協働を基本理念として運営する三木山森林公園、ふるさとの森公園において、森づくり活動や自然観察のプログラム等の実施により、身近に自然と触れあう場を提供する。

・三木山森林公園管理運営事業 107,552千円
・ふるさとの森公園管理運営事業[6公園] 172,713千円

2 県有環境林の管理

乱開発の抑制等を図るために取得し、良好な地域環境を保全してきた山林について、森林の公益的機能に着目し、県有環境林として適切な管理を行う。

・県有環境林管理事業[14地区2,379ha] 54,050千円

3 災害に強い森づくり・第3期対策の推進

県民緑税を活用した「災害に強い森づくり」では、平成26年8月豪雨災害による斜面崩壊・流木発生対策などの課題も踏まえた第3期対策に取り組んでいる。近年多発する豪雨災害や新たな地域で深刻化する野生動物被害への対策として、第3期対策の追加事業を県内25箇所で行う。

〈R2年度追加事業：25箇所 180百万円〉	
① 緊急防災林整備（溪流対策）	17箇所
② 里山防災林整備	2箇所
③ 野生動物共生林整備	2箇所
④ 都市山防災林整備	4箇所

(1) 県民緑税充当事業 第3期対策

・緊急防災林整備 705,349千円
[斜面对策：900ha、溪流対策：調査箇所17箇所、森林整備17箇所]



土留工の設置

簡易流木止め施設

・針葉樹林と広葉樹林の混交整備 295,205千円
[計画調査設計200ha、作業道開設200ha、広葉樹植栽200ha]

・里山防災林整備 536,852千円
[基本計画調査220ha、整備200ha]

・野生動物共生林整備 327,433千円
[基本計画調査420ha、森林整備358ha]

・住民参画型森林整備 25,500千円
[森林整備20ha]

・都市山防災林整備 83,100千円
[基本計画調査80ha、森林整備40ha]

(2) 広葉樹林化促進パイロット事業

奥地林など収益性が低く伐採が進まない高齢人工林を小面積で伐採し、跡地への広葉樹植栽に加え、植栽地の維持管理（下刈り、防護柵補修、補植）を支援し、山地災害を防止するとともに野生動物の生息環境に適した広葉樹林へ誘導する。

・広葉樹林化促進パイロット事業 10,432千円
[更新伐17ha、作業道開設1.7km等]

4 森林の保全・管理

(1) 保安林の指定等

治山事業施行予定地などの保安林指定を進めるとともに、公益的機能の維持・増進に資する保安林の森林施業の確保、標識設置や伐採等の行為制限により保安林の適正な管理、保全を図る。

・保安林等整備管理費 13,935千円

(2) 適正な開発行為への誘導

森林が持つ公益的機能を確保するため、地域森林計画対象森林における許可制度の適正な運用により、森林の保全を図る。

・林地開発許可制度実施費 2,030千円

(3) 森林の保全巡視

保安林や林野火災の危険性の高い森林において、無許可の開発行為等の早期発見、林野火災の予防啓発等を目的として「森づくり指導巡視員」を県民局・県民センターに配置し、森林の保全と管理を行う。

・新ひょうごの森指導巡視事業 9,191千円



土砂流出防備保安林

ナラ枯れ被害木と伐倒駆除（くん蒸）処理

5 森林病虫害被害対策

(1) 松くい虫被害対策

① 被害対策の概要

保安林等の公益的機能の高い松林や地域経済上重要な松林を防除区域と定め、特別防除、地上散布、樹幹注入等の予防対策と、伐倒駆除や造林事業（衛生伐）の駆除対策を組み合わせ、松林機能の保全を図る。

② 環境に配慮した駆除対策

農薬使用を軽減するため、被害木の搬出が可能な箇所については、伐採後に搬出した後、破碎・焼却により殺虫する特別伐倒駆除を推進する（対象区域：高度公益機能森林）。

③ 抵抗性マツの植栽

被害を受けにくい松林を造成するため、抵抗性マツ『ひょうご元気松』10万本植栽事業を継続して実施する。

・予防対策（特別防除、地上散布、樹幹注入） 36,408千円

・駆除対策（伐倒駆除、特別伐倒駆除） 25,270千円

・ひょうご元気松10万本植栽事業 1,100千円

・森林病虫害防除予防推進費（薬剤防除自然環境等影響調査ほか） 1,009千円

(2) ナラ枯れ対策

県内26市町で被害が発生しているナラ枯れは、コナラの場合で5～7割は生き残り、被害発生から終息までの期間は5～10年程度とされている。

しかしながら、枯損木の倒伏による人や車への被害及び景観の悪化等が懸念されることから、被害先端地の市町を中心に、里山の散策道沿いなど不特定の県民が立ち入る森林や地域資源として景観が重視される森林で重点的な駆除対策を実施し、二次被害の防止を図る。

・その他法定病虫害駆除事業（ナラ枯れ被害対策） 38,864千円

(伐倒駆除（くん蒸）、噴霧剤処理（粘着剤塗布）、粘着シート、樹幹注入）

(3) 被害木の景観対策

景観の保全が必要な箇所において、過年度の松枯れ・ナラ枯れの被害木を伐倒処理する。

・県単独松くい虫被害等景観対策事業 16,264千円

令和2年度 豊かな森づくり課 主な事業 当初予算額
17,924,183千円 (対前年度比104.5%)

令和2年度 鳥獣対策課
(野生鳥獣対策関連) 予算の概要

野生動物被害防止総合対策の推進

シカ・イノシシの捕獲拡大により農林業被害は全体的には減少傾向にあります。被害が増加している地域もあるため、地域の実情に応じた野生動物の①個体数管理、②被害管理、③生息地管理を総合的・計画的に進めます。

1 シカ・イノシシ被害対策の推進

被害が大きく狩猟者が少ない地域等での有害捕獲の強化、狩猟期間中の捕獲の推進、被害集落への人的支援策を実施します。

(1) 鳥獣被害集落ローラー作戦等 813,992千円

農業被害を防止するため、獣害防護柵の設置や野生動物の隠れ場所となる茂みの伐採(獣害ベルト緊急整備)を支援します。

市町が集落に派遣する獣害専門事業者(鳥獣対策サポーター)の活動経費の支援や、市町職員の対策技術・知識向上のための実践研修を実施します。



【集落住民による獣害防護柵の設置】

(2) 捕獲の拡大 545,005千円

シカ4.6万頭、イノシシ2万頭の捕獲達成に向け、市町による有害捕獲に加え、県が編成した捕獲専門家チームによる代行捕獲や、狩猟期の捕獲報償金の充実、ICT活用等による捕獲を強化します。

(3) シカ丸ごと1頭活用大作戦 171,042千円

捕獲したシカを食肉など地域資源として有効活用を図るため、処理加工施設等の整備、捕獲個体の処理加工施設への搬入・回収支援、冷凍車等の導入を支援します。ひょうごジビエの日(毎月6(ロク=鹿)日、16(シシ=4×4)日、第4火(シカ)曜日)の普及啓発により、食肉・ペットフード等へのシカ肉の需要拡大を図ります。

さらに、販売ロットの確保とコスト削減を図るため、県内の処理加工施設のネットワーク化によ

るシカ肉、皮、角の広域的な集荷・流通を支援します。



【鳥獣対策優良活動表彰発表(NPO法人cambio)】

2 ツキノワグマ出没被害対策強化 14,108千円

生息数が増加しているツキノワグマの集落への出没や人身事故の発生を防止するため、不要果樹の除去(獣害ベルト緊急整備)、集落周辺部での有害捕獲の強化



【集落に出没するツキノワグマ】

3 カワウ被害対策の強化 5,593千円

アユ食害を与えているカワウの個体数管理のため、擬卵置換等の繁殖抑制、営巣地や飛来地(銃猟可能なシューティングポイント)での捕獲等を支援します。

また、銃での捕獲不可地域でのあみ・わなでの捕獲試験や、タカによる追い払い試験等を実施します。

4 狩猟後継者の確保・育成 1,759,211千円

狩猟への関心を高める狩猟体験会やフォーラムの開催、初心者向けの狩猟への理解を深める講習会等の開催により、狩猟者の確保を進めます。

新たな有害捕獲従事者向けの狩猟マイスター育成スクール等の実施、専門知識の習得や銃撃等の技術力向上の拠点施設となる「県立総合射撃場(仮称)」の整備を進めます。

令和2年度 鳥獣対策課
・野生動物保護管理費 3,165,575千円
(対前年度比 198.8%)

※イラスト(シカ):兵庫県森林動物研究センター提供

令和2年度 治山課
予算の概要

近年、局地豪雨が増加傾向にあり土砂・流木災害が頻発していることから、治山ダムの整備や山腹崩壊地の復旧に積極的に取り組む。特に平成30年7月豪雨災害等を踏まえて、流木・土砂流出防止対策の一部を前倒し実施とした「第3次山地防災・土砂災害対策計画」に基づき、人家等に直接被害を与える恐れのある溪流、人工林率の高い谷筋や0次谷の存在する山腹斜面のうち流木災害や崩壊の恐れのある箇所に対して、治山ダム等の整備を進める。また、防災力向上のため策定された「防災・減災、国土強靱化のための3カ年緊急対策」の効果的な継続活用を図る。

あわせて過密化した保安林での森林整備を行い、森林の持つ多面的機能の維持向上を図る。

ソフト対策では、山地災害危険地区の情報発信や山地防災教室の開催など、県民の避難行動に役立つ情報を提供する。また、地域での防災マップ作成等の減災支援対策を行い、地域の防災力の向上を図り、総合的な山地防災・減災対策を推進する。

林道事業については、「第3期ひょうご林内路網1,000km整備プラン」に基づき、森林整備や木材生産の基盤となる森林基幹道及び林業専用道の整備を推進する。また、効率的な木材搬出等を推進するため、基幹道沿線において路網拠点施設の整備を行う。

1 治山対策の推進

(1) 「第3次山地防災・土砂災害対策計画」の着実な推進 H30～R5年度

区 分	着手箇所数(箇所)
人家等保全対策	438
流木・土砂流出防止対策	240
計	678

(2) 治山施設の維持管理と長寿命化対策

治山施設の防災機能を持続的に維持・発揮させるため、老朽化が懸念される約650施設について、令和2年度までの個別施設計画策定を進めるとともに順次補修等を行う。

(3) 「新ひょうごの森づくり」第2期計画の推進

森林の過密化により林床植生が消滅し、表土が流出する等、機能が低下した保安林を対象に、本数調整伐等の森林整備を推進する。

【治山事業費】

公共治山事業費	3,926,000千円
公共(臨時・特別分)	947,000千円
県単独治山事業費	265,000千円
県単独緊急防災事業費	2,070,000千円
県単(臨時・特別分)	100,000千円
治山施設災害復旧事業費	10,000千円
合計	7,318,000千円

2 林道整備の促進

(1) 幹線林道の開設

林内路網の骨格となる森林基幹道2路線(須留ヶ峰線、千ヶ峰・三国岳線)の開設を計画的に進める。

(2) 支線林道及び路網拠点整備

林道から森林作業道等を接続する支線林道となる林業専用道「神河2号線」の開設や高性能林業機械が効率的に作業できる作業用地を設置する路網拠点を4箇所を整備する。



奥地へ繋がる支線林道(千町・段ヶ峰線)

(3) 林道の機能強化

車両の安全な通行を確保するため、巡視や安全点検をはじめ、個別施設計画に基づく施設の補修・修繕、及び路面の舗装、法面の改良工事等の維持管理を計画的に推進する。

(4) 市町営林道への支援

災害発生時の迅速な対応や林道技術者の育成を目指し、市町職員を対象とした林道施設災害復旧や長寿命化対策の研修を開催する。

【林道事業費】

公共林道事業費	632,620千円
公共(臨時・特別分)	71,000千円
県単独林道事業費	340,400千円
県単林道事業費(管理費)	52,157千円
林道施設災害復旧事業費	185,263千円
合計	1,281,440千円

3 里山防災林整備(災害に強い森づくり)

第3期計画として集落裏山にある里山林の山地防災機能向上のため、危険木除去等の森林整備や丸太柵工等の簡易防災施設の整備を実施する。(予算額等は豊かな森づくり課予算の概要参照)

令和2年度 治山課 主な事業 当初予算額
8,599,440千円(対前年度比 96.1%)

「ひょうごの木」利用拡大

但馬地域協議会の取り組み

但馬県民局 豊岡農林水産振興

1 はじめに

「兵庫県産木材の利用促進に関する条例」の制定（29年6月）により、建築用と燃料用の2本柱で、余すところなく県産木材の一層の利用拡大に取り組んでいます。但馬地域では、森林組合、木材市場、工務店等、木材の川上から川下までの関係者で構成する、「ひょうごの木利用拡大但馬地域協議会」を設置（31年3月）し地域の実情に応じた利用促進を進めています。

2 但馬県民局での取り組み

(1) 地域産材の活用による公共施設の木造・木質化検討会

平成29年度にNPO木の建築フォーラム主催の「第13回木の建築賞」で、大賞を受賞した香美町立村岡小学校・村岡幼稚園において、公共施設における地域材使用の実例紹介やプロポーザル等による地域産材を活用した木造・木質化についての検討会を開催しました。



公共施設の木造・木質化検討会
(香美町立村岡小学校・村岡幼稚園)

日時：令和元年8月27日
場所：香美町立村岡小学校・村岡幼稚園
講師：NPO法人サウンドウッズ、香美町教育委員会 ほか
参加者：15名

(2) 主伐再造林先進地視察研修会

原木供給力向上の前提となる主伐再造林に必要な高性能林業機械の活用など、効率的な作業システムの構築とコスト削減につなげるため、先進事業者での主伐再造林一貫作業方法及び合板メーカーの



主伐再造林先進地視察
(島根県雲南市)

今後の需要動向等の調査を兼ねた研修を開催しました。
日時：令和元年11月25〜26日
研修先：飯石森林組合(島根県)
(株)日新(鳥取県)
参加者：15名

(3) 主伐再造林コスト算出・分析研修会

成熟化が進行する人工林資源の有効活用を図り、持続的な資源循環型林業を実現するため、主伐による原木の安定供給と主伐後の低コストかつ確実な再造林について、花粉発生源対策促進事業でのコスト分析結果を中心に研修会を開催しました。

日時：令和2年2月3日
講師：森林林業技術センター



主伐再造林コスト算出・分析研修会

3 今後の取り組みについて

公共施設の建設計画等を把握し、木材利用の意義や条例の趣旨を説明し、木造・木質化等の働きかけに取り組み予定です。

また、原木供給を担う森林組合等の林業事業者は、供給ロットの拡大や精度の高い出材計画及び品質の確保など各実需者のニーズに応えるため、原木供給力を強化する体制強化が必要です。

このため、構成員間での安定的・継続的な取引の実現に向け、需要・供給情報の共有とその活用をはじめとする新たな仕組みづくりを検討します。

参加者：22名

森林ボランティア活動

平松区森林愛好会(丹波市)

会長 伊藤 忠 嘉

私たちは、地域の里山が荒廃化し、放置林となっている姿に耐えられず、平成25年に地域の有志による小さな任意団体の組織を立ち上げました。

鬱蒼として住民も近づけない竹林や里山林内の下刈り、間伐等を毎年、計画的に実施してきました。

その結果、現在では、侵入竹林も絶え林内は明るく見とおしがきき、森林景観も大きく好転してきました。



この様な状況や活動の悩みなどを抱えている地域は県内にもたくさんあると思います。私たちは森林に関わっていく中で、「兵庫県森林ボランティア団体連絡協議会」という組織があることを会員の方に教えて頂きました。当時は手探りの中で活動している私たちの団体が加入することはおこがましくも感じましたが、ボランティア活動で森林を守ろうとしている姿勢に感銘を受け入会させていただきました。

年に2回開催される団体交流会や各種イベントに参加することにより、行政や各活動団体様の森林に関わる取り組みの状況や方向性がわかる様になり、私達も一歩一歩活動の力をつけていく事ができる様になりました。

さて、昨今においては、地球温暖化防止、水源涵養、生物多様性の保全など森林機能の重要性が強く求められている状況にあります。兵庫県の面積の67%を森林が占めている中、小さな活動ではありますが、協議会会員仲間たちと共に森林環境の保全・維持に参画できていることの喜びと楽しみを感じているところです。

森林資源を利用することによって得られるライフスタイルの豊かさを味わう楽しみ方も増えてきています。林業に従事される皆様に限らずより多くの方々が森林に関わり兵庫の森林が保全される事を願っています。



「全県土分の高精度3次元データ」の公開

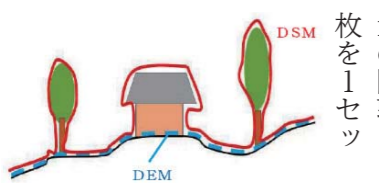
兵庫県農政環境部農林水産局治山課

兵庫県では、令和2年1月10日に、森林以外の区域も含めた全県土分の高精度な3次元データ(グラウンドデータ等)を誰でも自由に利用できるオープンデータとして「G空間情報センター」のWebサイトに公開しました。
<https://www.geospatial.jp/ckan/dataset/2010-2018-hyogo-geo-potal>



微地形表現のCS立体図

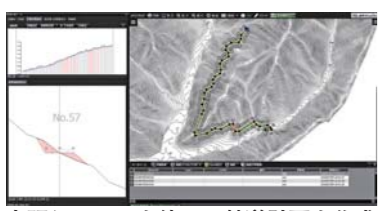
今回、公開したデータは航空レザ測量(平成24〜25年度実施)により取得したデータ等を加工・作成したもので、1mメッシュの高精度で、4種類のデータです。データは、3平方キロmの図郭4枚を1セット



種類	データ形式
① 建物・樹木などの地物の高さを含む地球表面 [DSM]	緯度・経度・標高値のテキストデータ
② 建物・樹木などの地物の高さを含まない地球表面 [DEM]	画像データ(緯度・経度・標高値を含む)
③	画像データ
④ 地形の微細な凹凸を表現する地図 [CS立体図]	画像データ



航空写真とハザードマップを重ねて立体表示



市販システムを使って林道計画を作成

**令和2年度「ひょうごの木の家」
設計支援事業のお知らせ**

兵庫県では、県産木材を利用し、木材の魅力を見せる木造住宅の設計を支援することにより、工務店の県産木材利用意識を高めるとともに、木材の魅力を県民に普及・啓発し、県産木材の利用促進を図る取組を実施しています。

【助成対象者】
「ひょうごの木の家」登録工務店

【助成要件】
助成対象となる設計は、①～④のすべてを満たすもの

①助成年度内に設計し、令和三年二月末日までに施工契約する住宅

②ひょうご木の匠登録工務店が県内に建築する新設木造住宅

③木材使用量のうち県産木材を50%以上使用

④居室の梁、柱、天井、壁、床のいずれかで県産木材を目視、このほか、建築中には、県産木造住宅である旨ののぼり等掲示や完成後の住宅見学会開催が必要

【助成金額】
設計1件あたり三十万円

【申請先】
対象件数 百五十件予定

ひょうご森づくりサポートセンター
(兵庫県木材業協同組合連合会内)
電話 〇七八―三七―一〇六〇七
FAX 〇七八―三七―一七六六二

**令和2年度
狩猟免許試験のご案内**

兵庫県では、今年度の狩猟免許試験は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、開催を延期させていただきます。

【お問い合わせ先】
各県民局森林課又は
農政環境部鳥獣対策課
(〇七八―三六―一三四六三)

【初心者狩猟講習会のご案内】
狩猟免許試験を受験される方を対象に、一般社団法人兵庫県猟友会が知識・技能に関する講習会を実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、開催を延期させていただきます。


なお、開催日については、新型コロナウイルス感染症の収束状況を考慮し、開催日程を改めて決定致します。

初心者狩猟講習会のご案内

狩猟免許試験を受験される方を対象に、一般社団法人兵庫県猟友会が知識・技能に関する講習会を実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、開催を延期させていただきます。

なお、開催日については、新型コロナウイルス感染症の収束状況を考慮し、開催日程を改めて決定致します。

【お問い合わせ先】
(一社)兵庫県猟友会
(〇七八―三六―一八二七)

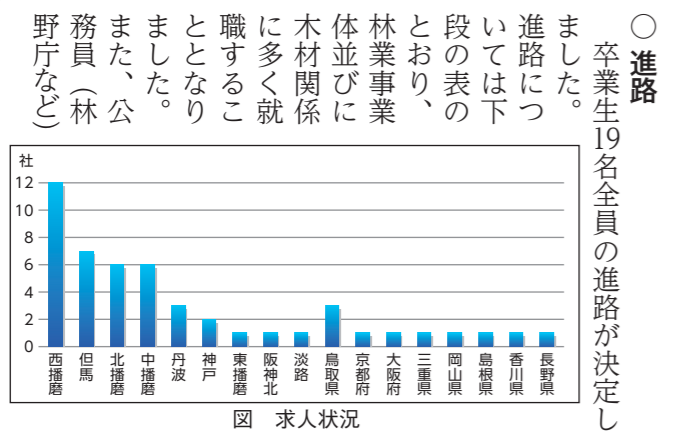


県立森林大学校卒業生の進路等について

森林経営や森林林業に関わる人材を幅広く育成する専修学校兵庫県立森林大学校では、去る三月十九日、第2回卒業式を行い、第2期生19名が社会人として巣立っていきましました。

卒業生の進路等については次のとおりです。

○求人状況
49社、100名の求人があり、求人倍率は約5倍です。地域別内訳は次の図のとおりで、県下各地、県外からの求人もありました。



に進む者もいます。卒業生の今後の活躍を期待しています。

表 卒業生の進路


進路	人数
林業事業体	5
木材関係	5
森林組合	3
造園関係	2
公務員	3
団体職員	1
計	19

○学外就業体験と就職
本校では、就業イメージを掴み、実社会への適応能力向上を図るため、6週間の学外就業体験を実施しています。学外就業体験から就職につながることも多く、第2期生では学外就業体験後の十月～十二月に8名の就職内定が発表されました。

また、学生の就職について、平成三十年度から職業紹介事業に取り組み、本校が事業者と学生の雇用関係の成立を斡旋しています。

【公開講座について】
当校研修科では、森林や林業・木材を取り巻く事柄に興味や関心を持っていただくため、一般の方を対象とした講座を実施しています。

詳細は県HPに順次掲載します。興味をお持ちの方は是非ご参加ください。



2020年度の技能講習会等のご案内
林業・木材製造業労働災害防止協会 兵庫県支部

1 はじめに
当支部では、林業・木材製造業の労働災害防止のため、労働安全衛生法に定められている林業・木材製造業の作業の従事に必要な技能講習会等を次のとおり開催しますので、関係する方々の受講をお願いいたします。

2 実施計画

3 お問い合わせ先・申込先
〒650-0012
神戸市中央区北長狭通5-5-18
林業・木材製造業労働災害防止協会 兵庫県支部
(兵庫県木材業協同組合連合会内)
☎ 078-371-0607

2020年度 技能講習会等実施計画 (予定)

区分	名称	実施年月日	場所
技能講習	木材加工用機械作業主任者	2020年 7月 9日 ～ 10日	姫路労働会館 (姫路市北条)
	はい作業主任者	2020年 8月 6日 ～ 7日	
特別教育	【旧課程】 伐木等(大径木等) 「チェーンソー作業 従事者特別教育」	2020年 6月 9日 ～ 11日 ※11日は補講を実施 ※一般募集は十数名	<学科> 中はりま森林組合 会議室 (神崎郡神河町)
	【新課程】 伐木等(大径木等) 「チェーンソー作業 従事者特別教育」	2020年 8月18日 ～ 20日 2020年11月17日 ～ 19日 2021年 3月 2日 ～ 4日	<実技> 中はりま森林組合 製材工場内 (神崎郡神河町)
	車両系木材伐出機械等 運転業務 3教育一括講習	<学科> 2020年 8月27日 ～ 28日	中はりま森林組合 会議室 (神崎郡神河町)
	伐木等機械 走行集材機械 簡易架線集材装置(架線集材機械) [一般募集は若干名]	<実技> 2020年 9月 9日 ～ 11日	中はりま森林組合 製材工場内 (神崎郡神河町)
安全衛生教育	刈払機取扱作業 安全衛生教育	2020年 6月19日 ※一般募集は十数名	中はりま森林組合 会議室及び土場 (神崎郡神河町)
		2020年 9月25日	
		2020年11月13日	

※開催予定の講習会は、新型コロナウイルス感染症等の拡大防止に向けた取組に関する要請や、当支部の都合により、日程等を変更する場合があります。
※講習会のご案内は開催日1ヶ月前を目処にウェブサイト上などで行います。
HPアドレス: <http://www1.odn.ne.jp/hyogomokuren/rinsaibu/>

士・木・緑・そして人
とりもどそう 人にやさしい環境

株式会社
グリーン興産

〒671-4141
兵庫県東粟野市一宮町東河内1003
TEL 0790(72)1553 FAX 0790(72)2327



営業品目
森林部門・・・素材生産・森林整備・危険木伐採
土木部門・・・公共土木・一般土木工事
緑化部門・・・公共緑化工事・一般造園工事
建築部門・・・新築・リフォーム・エクステリア工事
E-mail: info@greenkousan.co.jp
URL: <http://www.greenkousan.co.jp>

森林整備・造園・法面・土木・設計施工管理
緑と笑顔が私たちの基本です

株式会社 西村風昇園

豊岡本社 〒688-0051 兵庫県豊岡市九日市上町846-1
TEL(0796)23-5611 FAX(0796)22-4529
URL[<http://fuukouen.com>] E-mail[seifuu@skyblue.ocn.ne.jp]

・姫路本店
・神戸営業所

あなたの町の森づくり・木材利用・木育をサポートします。
ひょうご森づくりサポートセンター

森林環境譲与税や森林経営管理法に関すること、県産材や地域産材の利活用に関することなど、何でもお気軽にご相談下さい。

■神戸市中央区北長狭通 5-5-18 ひょうご森づくりサポートセンター

森林整備：☎ 078-381-5425 (兵庫県森林組合連合会内)
 木材利用等：☎ 078-371-0607 (兵庫県木材業協同組合連合会内)
 URL : www.hyogomori.jp/sc



JForest 兵庫県森林組合連合会
 Hyogo Prefectural Federations of Forest Owners Cooperative Associations

エムシー緑化の 林業用薬剤

ススキ ササ地に

松枯防止樹幹注入剤

フレック® 粒剤10

マツガード®

発売元 **正和商事株式会社**

大阪市中央区道修町1丁目3番4号 〒541-0045
 TEL 06 (6203) 4541 FAX 06 (6203) 4347

“**治山・林道測量**”



は経験と実績のある
株式会社 石原測量コンサルタント

国土交通省登録第24891号
 県知事許可(般-27)第461481号

本社 兵庫県宍粟市山崎町 船元250-1
 Tel (0790) 63-1377
 Fax (0790) 63-1398
 営業所 兵庫県姫路市夢前町筋野1078-3
 Tel (079) 336-1418



■550XP/XPG-Mark II

NEW



■排気量：50.1cm³
 ■出力：2.8KW
 ■質量：5.3/5.5kg(XPG)
AutoTune

本当の価値が分かる方へ!

安全と作業効率を追求し続けるハスクバーナは、プロが認めるチェーンソーの最高峰です。革新的な技術を融合し、これまで以上の加速とトルクで他に類のない鋸断能力を発揮します。新登場550XP-Mark II、ぜひお試しください。

愛林興業株式会社

本社 姫路市飾磨区恵美酒294-3 TEL (079) 234-8181(番代)
 神崎店 神崎郡神河町吉富1409-2 TEL (0790) 32-0570番
 但馬店 養父市上野1357 TEL (079) 664-2101番

緑を育み水をつくる**水源林造成事業**

分取林方式により、水源林造成事業を進めています
 対象地は無立木地など、公益的機能の低下した水源かん養保安林です

国立研究開発法人森林研究・整備機構
 森林整備センター近畿北陸整備局

神戸水源林整備事務所 TEL (078) 362-5800
 FAX (078) 362-5802

兵庫県水源林造林協議会 TEL (078) 351-3341
 〒650-0012 神戸市中央区北長狭通5丁目5番18号
 (兵庫県林業会館内)

森林を守り育て、地域の安全・安心を確保する**治山事業**。
 美しい森林、豊かな緑を確保する**林道事業、造林事業、**
松くい虫防除事業。



一般社団法人 **兵庫県治山林道協会**

〒650-0012 神戸市中央区北長狭通5丁目5-18
 TEL: 078-371-0210 FAX: 078-371-6632

HP [兵庫県治山林道協会](#)



ふるさとの木「兵庫県産木材」おすすめします

当会では、公共施設や公共土木の工事、地域型住宅グリーン化事業、「ひょうごの木の家」設計支援事業等で使用される兵庫県産木材の証明、兵庫県産木材利用木造住宅特別融資制度の申請に必要な県産木材(ひょうご県産認証木材製品)使用住宅証明書の発行を行っています。兵庫県産木材は、当会に設置している県産木材供給部会の部会員が積極的に供給しております。詳しくは、当会のホームページをご覧ください。

兵庫県木材業協同組合連合会

〒650-0012 神戸市中央区北長狭通5丁目5番18号 兵庫県林業会館3階
 Tel : 078-371-0607 Fax : 078-371-7662 URL : <http://www1.odn.ne.jp/hyogomokuren/>

自己流で使っていませんか?

チェーンソー・刈払機の安全講習のご案内
 講習を受けて、正しい使い方を学びましょう!

チェーンソー(大径木等伐木) 作業従事者特別教育		刈払機取扱作業者 安全衛生教育	
2020.6.9~11(予定) ※旧課程.11日は補講	中はりま森林組合 会議室 (神河町寺前)	2020.6.19(予定)	中はりま森林組合 会議室 (神河町寺前)
2020.8.18~20(予定) ※新課程		2020.9.25(予定)	

林業・木材製造業労働災害防止協会 兵庫県支部



緑の募金にご協力をお願いします

緑の募金は地域の緑化活動への助成やボランティア団体が行う森づくりへの助成に活用しています。ご協力いただく募金は、金額の多少を問わず次の金融機関へ振込をお願いします。

ご寄付の方法

- 郵便振込 (手数料不要 (協会負担))
 郵便の場合、公益社団法人兵庫県緑化推進協会に直接お問い合わせ下さい。専用の払込取扱票用紙をお送り致します。
- 銀行振込 (手数料必要)
 口座：三井住友銀行 兵庫県庁出張所
 普通 3198438
 名義：公益社団法人 兵庫県緑化推進協会



(春季募金運動期間)
 3月1日~5月31日

公益社団法人 兵庫県緑化推進協会

〒650-0012 神戸市中央区北長狭通5丁目5番18号 兵庫県林業会館4F
 TEL 078 (341) 4070 FAX 078 (341) 4071
 HP : <http://www.hyogo-green.net/>

緑の募金にご協力ください



兵庫の巨樹・巨木(33)

③6 日置のハダカガヤ

丹波篠山市日置の磯宮八幡神社の境内の表参道沿いに3本のカヤの巨木が大きな枝を広げて訪れた人待ちを受けてくれる。この参道を歩くことで森林浴(カヤ)に浸り、巨木の木の香りの恩恵を受け、心が静まる。好天日にはカヤの木の下での読書は如何だろうか。



参道沿いのカヤ



国天然記念物ハダカガヤ

境内の道路沿いに君臨するカヤの巨木であるが、その1本がハダカガヤと呼ばれ、ここにしか存在しないカヤである。

境内にはこのカヤの由来等が紹介されているのでここに記載する。

日置のハダカガヤ(国指定天然記念物・大正14年10月8日)

カヤはイチイ科の常緑高木であり、ハダカガヤはその変種である。通常カヤの実(堅い殻に覆われているが、このカヤの実はそれがなく、渋皮のみであるため裸(ハダカ)ガヤと呼ばれる。)

樹高20m、幹周4.5mであり、樹齡は不明である。

伝承では、足利尊氏が天皇方に敗れ、都から九州へ逃げる途中にこの地に立ち寄り、殻をむいたカヤの実を神前に捧げて武運長久を祈ったとされる。その時の実が成長し、ハダカガヤとなったと伝えられている。



固皮無し(内樹皮無し)ハダカガヤ
固皮有り(内樹皮有り)普通のカヤ実

その希少性から植物学上大変貴重な樹木であるだけでなく、磯宮八幡神社の社叢として地域に大変親しまれている。(丹波篠山市教育委員会)

カヤの実(一般的に外樹皮の青い皮と内に実を包む内樹皮があるが、ハダカガヤには内樹皮が無く、発芽能力が無い。)

カヤの北限は群馬・福島県で暖帯林の山地に散生する。雌雄異株で幹が直立し、樹高は20mにもなるが、成長が遅く、寿命が長い。また、耐陰性が強い。

材の用途は、碁盤・将棋盤・風呂桶で、実は食用に供され、実からの油は食用や灯火油に利用された。また、実は相撲の土俵の鎮めものとして米、塩、スルメ、昆布、栗とともに、土俵中央部の穴に埋められている。(ウィキペディアより)

樹勢について現地では3本のカヤの木には枯れ枝が殆んど見あたらなかったが、ハダカガヤに枝枯れがあったのが気になってくる。長年の暮ら



枝が折損していた



しで、土壌環境の通気・透水性が不良になっていることがあるかもしれないが、先端部の枯損が見られないことから治療などの緊急性は認められないかと思っている。枝の先端部はコンスタントに伸びている。(右写真) 樹齡については不明であるが、案内の解説にある足利尊氏の九州落ちから考えると、豊島河原の戦いで九州に落ちたのが一三三六年の出来事であるので、樹齡は六八〇年位と推定される。(3本とも同じであろう)

国の天然記念物指定制度が一九一九年に発足し、このカヤの指定が一九二五年であることから、このハダカガヤが如何に貴重な存在であるかが解る。日本に1本しかないカヤ。否、世界に1本しかないカヤの木である。

樹木医 橋本光政
樹木医 宮田和男
樹木医 塩見晋一